

(第6条関係)

中津市都市計画道路の変更に関するご意見

中津市都市計画用途地域の変更に関するご意見

ご連絡先	氏名 (法人の場合は団体名・代表者名)	大塚 正俊	
	住所 (法人の場合は所在地)	中津市大字大塚 384 番地	
	連絡先 (いずれかを記入)	電話 090-2508-7959	F A X 0979-226972
		電子メール ohtsuka222@themis.ocn.ne.jp	
該当箇所	(都) 中津駅角木線の一部変更 (未事業化区間の廃止)		
ご意見など	<p>都市計画道路は、住民の社会生活に必要な不可欠なものであり、自動車交通の利用のみならず、市街地の誘導、防災機能等、様々な機能を持ち、中津市のまちづくりの方向性を決める重要な役割を担う都市施設です。</p> <p>市街地の誘導の視点では、中津駅角木線は、中津駅北口から(都)小祝鍋島線を南北に貫く幹線道路であり、中津駅北口から城下町エリアに通じるシンボルロードとして、また小祝鍋島線沿線の海岸エリアと中津駅をつなぐ重要な道路として位置づけてきたはずで。それは、近傍の南北に貫く幹線道路の道路幅員が(都)宮永角木線は16m、(都)中殿大塚線16m、中津駅角木線20mを見ても明らかです。</p> <p>さらに、本路線の沿線の約80%は平成5年4月に策定された立地適正化計画の居住誘導区域や医療や商業などの都市機能を適正に配置しようとする都市機能誘導区域に位置付けられており、人口が将来にわたって増加する予測の北部校区において、持続可能で暮らしやすいまちを構築していくためにも必要な道路です。</p> <p>防災機能の視点では、南北に貫く(都)宮永角木線と(都)中殿大塚線の区間距離は1,000mもあり、その間には道路幅員2m以上の市道等は整備されていません。平成28年2月には、北部校区津波避難訓練(平成27年11月実施、参加者500名)を踏まえて、闇無、新大塚、大塚、米山、東蛸瀬、西蛸瀬地区自治委員の連名による「避難路としての中津駅角木線の早期着工を求める要望」が市に提出されています。しかし、現時点では道路整備の計画はなく、中津駅角木線の未事業化区間の廃止にあたっては、代替路線の整備が前提であると考えます。</p>		

さらに、約 500 人の児童が通う北部小学校周辺道路では、降雨時の送り迎えの車で混雑し、特に通学路となっている大塚町内や東西蛸瀬町内の狭隘道路の混雑が顕著となっています。中津駅角木線の整備により、人口が増えている闇無、新大塚、大塚、米山地区の児童の送り迎えが小学校正門に転換され、交通渋滞が解消されることが期待されます。災害時の避難についても同様です。

一方、廃止の理由として、「近傍の並行路線整備済みの中殿大塚線、整備中の宮永角木線があり、この 2 路線で十分周辺の交通量が満たせるとの交通量推計になったため、整備の必要性および優先性は低いと考える。」としています。しかし、駅や大型商業施設、学校、商店などが集積する地域における交通量推計においては、通行する車の向かう目的を明確に判断することが難しく、大規模小売店舗立地法に基づくゆめタウン出店計画に係る交通量推計の誤算を見れば明らかです。

現在、朝夕のゆめタウン、中殿町周辺では、交通渋滞が発生し、消防分団詰所前の交差点では交通事故も多発しており、交通渋滞を解消するためには中津駅角木線の整備が必要と考えます。さらに、令和 8 年度には宮永角木線が完成予定となっており、完成後の中殿大塚線の交通量変化を見極めることも必要と考えます。

さらに、「計画通り中津駅角木線の整備を行うと、中殿大塚線の交通量推計が、現況 1 日当り 6,700 台あるものが、600 台に減るため中殿大塚線自体の効果が薄れる。」としています。仮に、大型商業施設に出入りする車が全車中津駅角木線に移動したとしても、中殿大塚線の沿線にあるハローワーク、税務署、診療所、商業施設等の利用車が 600 台に減少するという交通量推計値は妥当とは言えません。

以上の理由により、（都）中津駅角木線の未事業化区間の廃止はすべきではないと考えます。

**【中津市からのお知らせ】**

○市役所まちづくり推進課にご提出ください。

○提出方法は①持ち込み、②郵送、③ロゴフォーム、の 3 通りです。

**【郵 送】** 〒871-8501 中津市豊田町 14 番地 3 中津市役所まちづくり推進課 あて

○この案件に関する提出期限は 4 月 22 日までです。（郵送の場合は当日必着）